

記	事
---	---

◎第4回理事会(昭.29.8.16)出席者:青木会長,菊池,藤井両副会長,兼重,飯田,中路,最上,後藤,星笠,片平,篠原の各理事,中川書記長,朝倉,梓箸,堀内の各主任,議事:1)7月中行事その他報告,2)40周年記念行事委員会の協議事項の確認,3)交部長会議及び臨時常議員会は式典の前に開催すること,4)明年の総会開催地について,5)学会誌と交換申出について,6)日本セメント研究所長からの学会誌報文の抄録方申出については著者と協議の上決定のこと,7)溶接研究連絡委員会の分担金について,8)会員の入退会について。

◎各種委員会

1. 編集委員会(昭.29.8.20)出席者:最上,後藤正副委員長,矢野(代岩井)関西地方委員,林,吉川,三上,西畑,斎藤,鈴木,坂本各委員,中川書記長,徳平幹事,岡本編集部員。協議事項:1)会誌および論文集進捗状況報告,2)投稿論文および新規受付論文審査委員の決定,3)次回講座について,4)40周年記念号原稿督促について,5)討議依頼先について,6)39巻10号(増大号)登載論文を次のとおり予定した。

安芸敦一: ECAFE について, 瀬尾五一: 清水港石炭埠頭計画について, 森 麟: 土の水に対する安定性について, 米沢 博: 直交異方性板理論の桁橋構造への適用に関する実験的研究, 脇 治雄: 調圧水槽の水理計算について, 横道英雄・松井 司: 高温水使用のセメントに及ぼす影響について, 岩垣雄一: 開水路水流の基礎方程式について, 石原安雄・湯浅博明: 電気的類似性の被圧地下水への応用, 安宅 勝: 曲げと直応力を受ける断面の決定法について, 鬼頭史城: 標準数規格について, 佐藤周一郎・斎藤卯之吉: 噴射式土砂吸揚法による杭打ちについて, 樋口芳朗: 摩擦によるプレストレスの損失, 米元卓介: 用語への関心

2. 学会誌抄録委員会(昭.29.8.6)出席者:左台委員長,林,樋口,渡辺(隆),山口,渡辺(修)(代宮崎),金星敷各委員,千秋抄録幹事,徳平編集幹事。議事:1)39巻9号抄録用として5篇を決定,2)繰越12篇,新規5篇について協議,3)抄録原稿のうち資料的要素の多いものは編集委員会に提出し資料として扱うようにすること,4)外国雑誌購入については理事会にリストを提出する,5)その他。

3. 編集小委員会(昭.29.8.6)出席者:後藤副委員長,久保,坂本両担当委員,岡本編集部員。協議事

項:39巻9号学会誌編集につき最終的打合せを行った,ページ数64ページの予定。

4. 第11回鋼鉄道橋設計示方書委員会(昭.29.8.2)出席者:田中委員長,沼田,青木,福田,成瀬,平井,奥村,田中,友永,高坂(代白鳥),多田の各委員,西村,菊池,田島,大宮,橋本,安浪の各幹事,中川書記長,堀内主任,議事:1)修正案を逐条審議し第3読会を終了した。2)月末に道路示方書委員会と連絡委員会を開くこと。

5. 第2回記念行事委員会(昭.29.8.4)出席者:浅野,最上,篠原,後藤,飯田,中路,立花の各委員,片平,大塚,徳平,藤原,荒木,田中の各幹事,中川書記長。議事:1)記念祝賀会を12.00~13.20とする。2)記念式までの行事委員会日程原案どおり,3)映画計画を樹てること,4)見学会スケジュールはB案すなわち10月28日朝東京出発とし輸送計画は田中幹事が検討すること,5)米国外名譽員に対する招請状原案承認,6)感謝状の贈呈先は理事会に一任,7)次回は8月18日前後とし委員長の都合によつて決定のこと。

6. 第5回橋梁構造委員会(昭.29.8.5)出席者:坂静雄,竹山謙三郎(JSC及び建築関係),福田委員長,平井,安宅,小西,松村,成瀬,田原(代),山田,国分,猪股,川口の各委員,菊池幹事,中川書記長,議事:1)P.C.及び合成樹脂発表会の打合せ, a)原稿25篇, b)29年9月4日午前9時~午後5時30分,1題15分の予定, c)前刷:ガリ版,図面写真は活版,500部とし1部250円, d)講演順序を決定, e)講演司会者その他決定, 2)ピラを作ること, 3)講演会後の懇談会について。

7. 大正以降土木史編集特別委員会(昭.29.9.7)出席者:鈴木委員長,高野,中路,高坂,谷藤の各委員,中川書記長,議事:1)高坂委員からトンネルの目次案を提示の上協議の結果,総論的のものを専門部門に入れ,各論的の工事記録は鉄道,道路等の部門で記述し,最後に再度協議すること,2)従つて各分科会に適任者を推薦し,それぞれの分科会で目次の編成を行うこと。

8. 第6回土木工事写真集委員会(昭.29.8.10)出席者:木村(代大石),小池(代細田),市浦,岩井(代大井上),貝島(代佐藤),五十嵐(代並木),田村(代高瀬),高坂,榎(代),林(鋼),林(真)(代吉田)の各委員,小林,高橋,金星敷の各幹事,議事:1)写真のでき上り大きさの標準を特大,大,中,小の4種類とし各委員で指定すること,2)各部門ごとに写真の順序を整備すること,3)説明文を完全に入れるこ

と、4) 以上整備の上8月11日までに学会に提出のこと、5) 編集順序を決定、6) 8月12日小林、高橋両幹事で割付ける予定。

9. 第2回行事委員会幹事会(昭.29.8.18)出席者:片平幹事長、大塚、藤原、荒木、田中、川勝の各幹事、中川書記長、議事:1) 記念式、祝賀会、見学会等の案内先について、2) 案内状その他文案について、3) 見学会スケジュールは田中幹事再検討のこと。4) 映画その他について、

◎昭和29年夏季講習会(昭.29.8.25~27の3日間、東大文経25番教室において)今回は今まで研究中のものまたは海外から導入されてなかつた新技術を紹介する意味で“新材料と新工法”について講習会を開いた

写真-1 会長挨拶

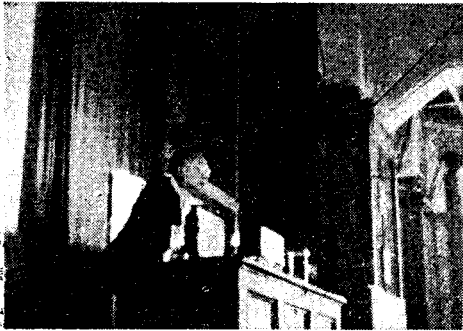
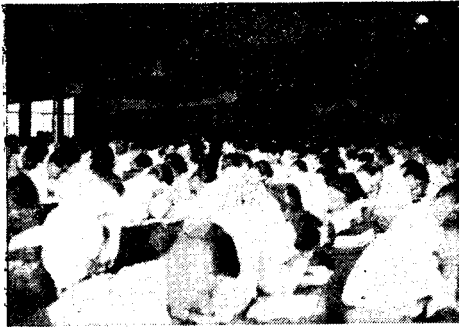


写真-2 聴講者



ところ、非常に好評を博し、聴講申込みが続々とふえ600名を突破するかに見えた。25日早朝からつめかけた聴講者で定刻には、広い教室もほとんど一杯になつたので、予定どおり星基理事開会を宜し、続いて青木会長登壇、講師の御労苦と聴講者の熱意に敬意を表した挨拶の後、次のとおり予定のプログラムに従つて講習が進められた。

第1日

フライ アッシュ 東大教授 工博 国分 正胤
プレバクト コンクリート(スライド説明)

国鉄鉄道技術研究所コンクリート研究室長

三浦 一郎

ウエルポイント工法(16ミリ映画説明)

鹿島建設技術研究所次長兼建築部長

甲野 繁夫

トンネルの全断面掘削工法(スライド及び16ミリ映画説明) K K熊谷組取締役 加納 俊二

第2日

新しい建設機械

建設省大臣官房建設機械課技官 伊丹 康夫

サンド ドレイン工法

運輸省運輸技術研究所港湾物象部土性研究室長

工博 石井 靖丸

映画:佐久間ダム(天然色、電源開発K K提供)

小河内ダム(天然色、東京都水道局提供)

白色ポルトランド セメント(天然色、小野田セメントK K提供)

ソイル スタビライザー(天然色、ボウズウェル商会提供)

ウッド式路上混合機械セット(天然色、第一物産K K提供)

プレバクト コンクリート(天然色、西松建設K K提供)

第3日

構造用高張力鋼 京大教授 工博 小西 一郎
異形鉄筋

建設省土木研究所材料研究室長 工博 山田 順治

本年は不順な陽気で、つい前日までは今夏最高気温と言われてうだるような暑さであつたが、25日朝から涼しい風がそよそよと吹く、まことにめぐまれた天候で聴講者一同胸をなで下したかに見えたが、一堂に多くの人が入つていることとて、やはり水銀柱は上つてきたが熱心な聴講者は講師の一言一句も聞き洩らさない意気込みであつた。第2日の映画は全部好評あるものばかりなので、これまた誠に有益な資料であつた。

予定どおり3日間の講習を終り第3日午前11時すぎ終講に当り会長挨拶の後、同氏から満場拍手のうちに聴講者代表宮城県土木部砂防課鎌田比登志君に修了証を授与し、予期以上の成果を収めることができた。年々聴講者が増加しつつあることは斯界のためにまことに慶賀にたえない次第である。ここに聴講者を勤務別別に分類すれば次のとおりである。

建設省	90	通産省	11	} 55
都市	34	電力会社	44	
運輸省	22	防衛庁	7	} 35
民鉄	13	学校	12	
国鉄	145	建設業者	158	
農林省	15	その他	6	
		合計	557	

◎見学会:夏季講習会の付帯行事として8月27日の最

終日終講式の後東大正門前から各見学先提供のバスに分乗し、見学先ではそれぞれ担当者の懇切丁寧な御説明を得、また暑さのおりから冷たい飲物等の接待を受け、一同予期以上の成果を収めた。終りに関係会社及び東京都水道局小河内貯水池建設事務所当事者に深甚の謝意を表する次第である。各班の参加人員は次のとおりであった。

- | | |
|---|-----|
| A. 日本鋼管KK川崎製鉄所特殊鋼製作工程 | 43名 |
| B. オリエンタルコンクリートKK多摩工場において異形鉄筋を用いた梁の試験及びPC製作工程 | 46名 |
| C. 小河内ダム建設工事 | 90名 |
| D. 石川島コーリング杉田工場におけるパッチャープラント製作工程 | 30名 |
| E. 日野デーゼル日野工場デーゼレンデン製作工程 | 25名 |

◎その他

1. 昭和29年7月30日資源協会が発会式を挙行し発足した。

2. 都市不燃化同盟では8月2日付総理、大蔵、建設各大臣及び自由党政調会長、衆参両院予算及び建設委員長あてに耐火建築促進法に基づく助成予算措置に関する建議を行った。

3. 去る8月17日風に関するシンポジウムの打合会を開催し、シンポジウムを11月25、26日の両日に開催し、関係学会で適宜の方法で講演募集を行うこととなつたと世話人横井鎮男氏から連絡があつた。

4. 夏季講習会講師打合せ(昭.29.8.23)出席者：星埜理事、片平理事、山田、三浦、甲野、加納、伊丹の各講師、中川書記長、椿箸、朝倉、堀内の各主任、議事：1) 各講師にパンフレットを贈呈し、講習会当日の詳細な打合せを行った。

支 部 だ よ り

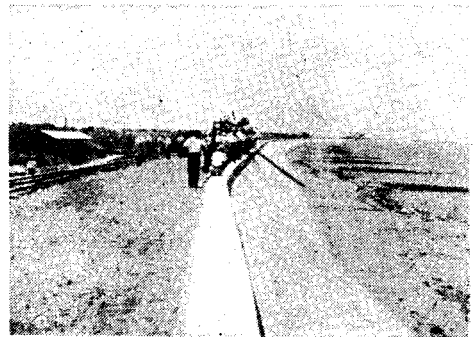
1. 東北支部 見学会(昭.29.8.14)熊ヶ根橋架設工事、参加者約140名、仙台駅前に12時40分集合、バスに分乗し、仙台一六郷一愛子一白沢一熊ヶ根のコースを経て現場に到着し橋梁架設工事を見学の上帰仙した。講演会(昭.29.8.28)東北支部並びにセメント技術協会東北支部共催で参加者約200名を得て東北大学第二教養部において行われた。プレバクトコンクリートについて(三浦一郎)、セメントの規格について(近藤泰夫)、ピーエスコンクリートについて(仁杉 厳)、9時30分より行われ15時終講した。

2. 中部支部 第2回幹事会(昭.29.6.1)出席者：竹重幹事長外各幹事20名、議事：1) 次回見学会及び講演会について、第2回講演会(昭.29.6.19)米国の

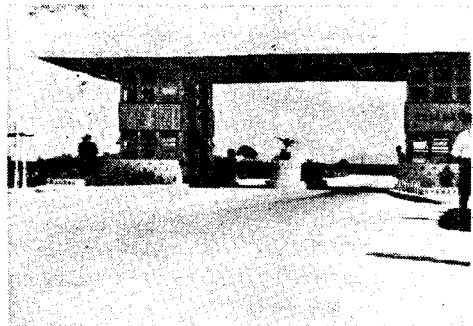
都市を見て(松本金吾)及び海外視察談(石川栄次郎)聴講者約60名、第3回幹事会(昭.29.7.6)出席者：竹重幹事長外22名、議事：1) 第1回見学会を7月10日に変更、2) 第2回見学会を7月31日国鉄今須トンネル工事見学と決定、3) 行事一部変更、第1回見学会(昭.29.7.10)濃美大橋建設工事、参加者約40名、午後2時名鉄新一宮駅に集合し、貸切バスで現場に行き、本多所長から詳細な工事説明があり現場視察を行い、橋脚はほとんど完成して一部橋桁の架設が行われていた。5時頃視察を終り一宮駅で解散。第2回見学会(昭.29.7.31)国鉄今須トンネル工事、参加者約20名、生憎前夜の豪雨によりダイヤ乱れたため参加者が少なかつたが2時30分関ヶ原駅に集合バスで現場に向い、広瀬技師の説明の後現場視察、7月14日導坑が貫通したばかりであるが巻立も相当進んでいた。視察後バスで関ヶ原古戦場を見、公民館長不破氏から合戦の話を開き往時を偲び6時頃関ヶ原駅で解散。

3. 関西支部 見学会(昭.29.8.5)国鉄信楽線第一大戸川橋梁プレストレストコンクリート主桁製作工事、参加者40名、信楽駅前に午後1時30分集合、バスで第一大戸川橋梁現場に到着、大阪工事事務所の塚本技師の説明を聞き工事実施状況見学の後、信楽駅前で解散。見学会(昭.29.8.7~8)三重県海岸堤防工事、有料道路及び宮川ダム工事、参加者31名(中部支

写真—3 三重県東黒部海岸防汐堤



写真—4 有料道路入口(松阪～宇治山田)



部会員数名を含む),現場ではそれぞれ担当者多数の出席を得て詳細な説明を受け会員一同に十分の満足を与えた。なお内官及び外官の参拜の機会を得,松阪城趾,本居神社,鈴酒舎等の見学も加えることができた。

写真-5 宮川ダム建設工事



4. 西部支部 第7回幹事会 (昭.29.7.31) 出席者:熊川支部長,上田,天方,乙藤,石川,古賀,武

田,下津,鍋山,和田の各幹事外古江,柳川世話役, 議題:1) 土木学会40周年記念,支部取組の特に功績ある者の永年勤続業績調査について,2) 夏季講習会(西部支部主催)について,3) 寄附金収納状況について,その他,夏季講習会(昭.29.8.21~22日阿蘇内牧において)聴講者約100名,下記のとおり題目で各講師熱心に講演し,聴講者一同十分の満足を得た。

開会の辞(熊川支部長)白川の災害(倉上 靖),河川の洪水調節法に関する一二の考察(川上謙太郎),伊之浦橋梁架設工事(村上永一),トンネルの地圧と掘進工法並びに覆工(渡辺寛治),剛節橋梁トラスの二次解法と完全解法(重松 愿),国鉄において試行した線路保守管理における推計的方法(福永貞造),プレバクト コンクリート(西松康友),コンクリートの配合(吉田彌七),河川の計画(和里田新平),土の締固め(内田一郎),ポンプ凌渡船の能率的使用法(新妻幸雄),閉会の辞(田代幹事長)。

お 詫 び

39 卷 8 号 46 ページ記事欄中,東北支部行事報告のうち,2) 同支部講演会並びに講習会(昭.29.6.30~7.2)以下15行の文章は,40周年記念号同支部行事報告の資料として(昭.24.6.30~7.2)に行われたものの報告であり,係の手違いから登載したもので,ここに取消しいたしますとともに同支部並びに会員各位に対しつつしんでお詫び申し上げます。(編集部)

昭和 29 年 8 月分入退会報告 (29.8.1~8.31 現在)

- 1. 入 会 139 名 (正48, 准 82, 学生 9)
- 2. 退 会 19 名 (特3級 2, 正 5, 准 12)
- 3. 転 格 10 名 (准より正 10)

会 員 現 在 数 (29.8.31 現在)

名誉員	賛助員	特別員	1級	2級	3級	正員	准員	学生員	合計	増加数
22	16	32	75	149	5266	6055	1442	13057	120	

昭和 29 年 9 月 10 日 印刷	土木学会誌	定価 100 円
昭和 29 年 9 月 15 日 発行	第 39 卷 第 9 号	
編集兼発行者	東京都千代田区大手町 2 丁目 4 番地	中 川 一 美
印刷者	東京都港区赤坂溜池 5 番地	大 沼 正 吉
印刷所	東京都港区赤坂溜池 5 番地	株式会社 技 報 堂
東京中央郵便局区内	千代田区大手町 2 丁目 4 番地	電話和田倉 (20) 3945 番
発行所 社団法人	土 木 学 会	振替東京 16828 番